

つくろう 家族の和 友情の和
『親子で鉛筆デッサンしてみませんか』

本日は『親子で鉛筆デッサンしてみませんか』にご参加いただきありがとうございます。ごぞいます。

この機会にデッサンの描き方、コツなどをお話ししたいと思いますが、それと同時にもうひとつ、大切なことをお伝えしたいのです。今日はお子様と同席されていることもありますし、また、時間の都合により、お手紙にすることに致しました。どうぞ最後まで読んでください。

お伝えしたいこと、それは絵に関して、お子様とのかかわりについてです。絵を描けない人間はいません。最初から絵を描くのが嫌いな人はいないと思うのです。

お父様、お母様は絵を描くのが好きですか？好きじゃない？どうしてですか？「絵は苦手だから…」どうして苦手になったのでしょうか。幼い頃を思い出してみてくださいね。

絵は描けば描くほど必ず上手くなるものなんです。描き続けている子が上手くなり、描かない子は上手くなりません。

幼児はたいてい絵を描くのが大好きですから、成長していくうちに描かなくなるきっかけが何かしらあるのです。そのきっかけが絵を描けない大人を生みまます。絵が描けません、絵は苦手です、という大人は幼少体験または成長期の経験により生まれることが多いのです。

絵はその人自身が表れる非常にデリケートなものです。それなのに、「下手だなあ〜」「何を描いたのかわからない」子供の絵は簡単に批判される機会も多いのです。悪気なく言ったことばに、その絵を描いた本人は非常に傷ついているということが実に多いのですよ。

お子様が絵を嫌いにならないために、描いた絵を否定しないことが大切です。

私が実際に体験したエピソードです。

幼稚園の男の子を持つふたりのお母様から相談がありました。「幼稚園の自由画帳がまっしろなんです、全く絵を描かないのです、絵を教えてください！」

たまたまですがお二人が同じ悩みでした。

そのふたりの子供は共通点がありました。上にお姉さんがいます。真っ白な紙を用意して「自由に絵を描いてごらん」と言ったら、ふたり共、地面があって、家が立って、木が一本生えていて空には雲がある絵を描きました。

描いている姿はとても楽しそうには見えません。

二人とも、絵とはそういうもの、という固定観念があるようです。それはお姉さんの影響だと思えます。女の子は器用ですし、歳が上なら尚更です。一番身近であるお姉さんが器用にきれいな絵を描いていたなら「僕はあんなにうまく描けない」と思ってしまうのもわかる気がします。お姉さんが家の絵を描いていたなら、「絵ってそういうものなんだ」と思ってしまうんです。

その子達には「運筆」から始めてもらいました。紙いっぱい線を描く、長く長く。どれくらい長い線が引けるだろう。

ひたすらいっぱい○を描く、画用紙いっぱい、どっちが早く画面を埋めるか競争！画用紙にギッシリの○、それだけで芸術ですよ。

そしてふたりは描く気持ちの良さ、楽しさを知りました。絵って決まった形ではなくてもいいことがわかりました。それからその子達は幼稚園で自由画を描くようになりました、たくさんたくさん。

絵が苦手だと思うきっかけ、嫌いになるきっかけは、絵をうまく描ける器用な兄姉の存在によることもあります。

また、両親や身近なひとの、何気ない否定の言葉の影響が大きいといえます。

私の経験によると、育児中のお母さま方はとても絵がお上手です。育児・家事・学校のこと・お仕事など、いろいろなことを同時にこなしながら生活しているうちに器用になるのかもしれませんが、それに人生経験によって、どんな絵が良い絵なのか、どういう風に描けばそれなりに見映えのする絵になるのか、知っているからといえます。

小学生のお子様は当然人生経験が浅いです。当たり前ですがお母様と同様には描けません。「まっすぐに線をひいて」と言っても、まっすぐな線の描き方を教えなければわかりません。まんまるな物を楕円に描いて平気な顔をしています。デッサンは対象物を正しく見れるようになるための訓練です。最初からうまく描けるひとはいません。

もしこのあと、お子様と一緒にデッサンを描いてみると、または学校の絵を持ち帰ったとき、夏休みなどの絵の宿題を見てあげるとき、「どうしてこうなるの？」「何の絵なのかわからない」「なんでこれ描いたの？」などという否定の言葉はどうぞ言わないでください。アドバイスをすれば、「こういう風に描いたらいいよ」や「もっと薄い色のほうが実物に近いね」など、具体的に教えるようにしてあげてください。

それから描き上げた絵に手を加えるのはお子様にショックを与えることがあるようです。もし保護者の方がお手伝いをするなら、描き始めに、お子様がどう

描けばよいか困っている時に、「ちょっと描いてみていいかな？」と確認した上で、少し描いてあげるとその先を進める手助けになるので、それは良いと思います。

私はひとりでも多くの方に絵を描く楽しさを体験して欲しいと思い活動しています。

今日のご縁が何かのきっかけになれば幸いです。

時計のデッサンの描き方

① 特徴をよくみる

文字盤とガラスとの関係、まっすぐなところ、まるみのあるところ

② 特徴を表現できるような大きさに描く

実物よりもやや大きめに描きましょう

③ 形を描く

丸を描くのは本当に難しいのです。そこで止まっていると先に進めません。最初のうちはうまく描けなくて当たり前。

「絵は描けば描くほどうまくなる」本当です。信じて頑張ってください。

④ 色のコントラストをつける

鉛筆は一色ですから、トーンを変える、濃い薄いの差をつける、ということになります。線の集合体だと意識してください。

鉛筆は立てて尖った部分で、線を描くようにします。真っ黒にするぐらいの気持ちで大丈夫です。

一番明るいところは一回描き、暗い部分は重ね描きします。薄いところは固い鉛筆、黒いところは柔らかい鉛筆を用品。

ありがとうございました。

2018年1月27日

田代りえ子

□アートラボ世田谷主宰・講師

こども絵画教室・こども図工教室

ママ向け単発絵画教室

他ワークショップ開催、講演会等

□水彩画教室すみれひまわり講師

□東京展美術協会運営委員

Blog:「水彩画セイサクノオト」<http://ameblo.jp/riekotashiro>

Instafram/ facebook/ Twitter …「田代りえ子」で検索してください

メール: nontacos2011@gmail.com

平成 30 年 2 月 15 日

PTA 会員の皆さま

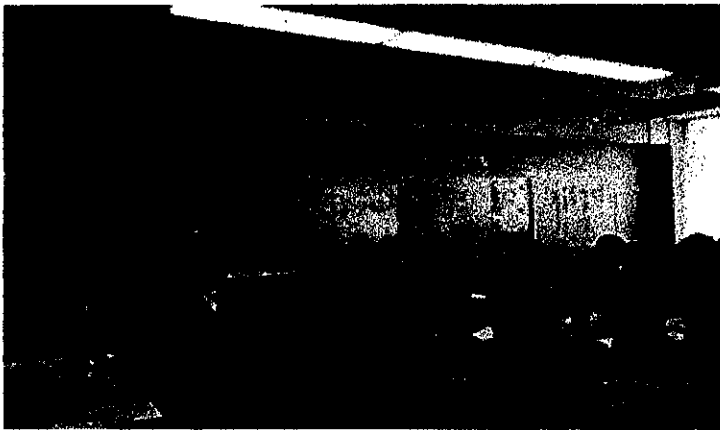


用賀小学校 PTA 会長 加地 満生
家庭教育学級担当 太田佳奈 植松宏子

平成 30 年 第 4 回家庭教育学級のご報告

第 4 回家庭教育学級を 1 月 27 日に開催いたしました。当日は 96 人の保護者、児童にご参加いただきました。

今回の講座は「鉛筆でデッサンをやりませんか」です。田代りえ子さん（世田谷アートラボ主催）をお招きして腕時計をモチーフにして画用紙にデッサンを行いました。



田代さんが、鉛筆の使い方、輪郭の取り方を説明し、デッサンがスタートしました。

最初は親子で話しをしながらワイワイとスタートしましたが、やがてランチルームが静かになってきました。皆が真剣な眼差しでデッサンに集中していました。

「絵は描けば描くほど上手くなるようになります」田代さんのお言葉です。
この講座が絵を書きたいという気持ちになききっかけになればよいと思います。

アンケートの一部を紹介します。

- ・ 集中力の続かない子どもを励ましながら 1 時間こなし勉強になることが多かった。
- ・ 久しぶりに夢中になった。無心になれました。
- ・ 二人で一緒に何かをするということは普段していないので、楽しかった。
- ・ 絵をたくさんかいて、うまくなりたいです。
- ・ 今後も美術系の講座をやってほしい。
- ・ こんな企画がないかぎり絵をかくことはなかったです。

今回をもちまして 29 年度の家庭教育学級は閉級となりました。

田代さん、社会教育指導委員の藤本先生、ご協力いただいた先生方、お手伝い係の方々
PTA 会員の皆さま、ご協力ありがとうございました。